

令和7年度「過年度の卒業生に対するアンケート調査等」実施報告書

1 調査の目的

本調査は、本学が学生に対して、在学中に身につけさせたい学力や資質・能力および養成しようとする人材像に照らして、学生の卒業後の進路・就職状況等から、教育の成果や効果を検証することを目的とする。

2 実施概要

本学の卒業生を対象に、「回答者属性」、「現在の所属・キャリア」、「修学の達成・成果」、「本学のキャリア支援体制」および「母校への思い」に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査結果は、学内において、集計・分析のうえで、教務センター等学内関係機関と情報を共有し、在校生に対する就職支援の改善および教育改善に反映させる。

3 実施期間

2025年8月1日より2025年8月31日までの1か月間

4 調査方法

グーグル社が提供するオンラインアンケートツール「Google フォーム」を利用した「インターネットリサーチ（WEB 調査）」によりデータを収集した。

5 調査（設問）内容

本学が掲げるディプロマ・ポリシーを中心とする機軸に照らして、所属・キャリア、修学の達成・成果、キャリア支援体制、母校への思いなどの問いを設定した。

6 調査依頼対象者

卒業後の連絡先が判明し、なおかつ、調査の主旨を理解したうえで、回答への協力をえることが可能な卒業生へ調査を依頼した。承諾をえた27名を調査対象とした。

7 学内担当

卒業生との連絡、「Google フォーム」によるアンケートの配信および集計・分析については、キャリア支援センターが担当した。

I 回答者の基本属性の集計結果を表1から表3に示す。

- ・卒業年度：2018年度1、2021年度1、2022年度1、2023年度6、2024年度16である。
- ・受験した入試制度：一般選抜（3教科型）5、一般選抜（2教科型）1、総合型選抜（I期）1、学校推薦型選抜（指定校制）10、学校推薦型選抜（公募制）4、学校推薦型選抜（併設校）4である。
- ・在学時の所属学科：商学科8名、観光産業学科16である。

II 「現在の所属・キャリアに関する質問」の集計結果を表4から表6に示す。

- ・現在の所属（勤務）先の業種：最も多い業種は、「教育・公務」5である。次いで「宿泊・飲食・生活関連サービス」4、「運輸・物流・郵便」および「不動産業・物品賃貸業」3、「エネルギー・建設・資源」2である。そのほかの業種はそれぞれ1である。
- ・現在の職業の職種：最も多い職種は、「営業・販売・サービス系職種」13である。次いで「事務・管理系職種」5、「教育・専門職系職種」および「製造・技術・研究系職種」がそれぞれ3、「運輸・物流・警備系職種」1である。
- ・現在の職場への満足度：「満足（「ある程度満足している」17、「とても満足している」6）」が8割以上（ $(23/27=)$ 85.2%）である。一方で、「満足していない（「あまり満足していない」1、「ほとんど満足していない」1）」の回答もある。

III 「修学の達成・成果に関する質問」の集計結果を表7から表11に示す。

- ・在学中の建学の精神および教育目標への理解度：「理解していた（「十分理解していた」7、「ある程度理解していた」17）」が約9割（ $(24/27=)$ 88.9%）である。一方で、「理解していなかった（「あまり理解していなかった」1）」の回答もある。
- ・在学中の教育を通じた知識やスキル：「身につけている（「十分身につけている」9、「ある程度身につけている」12）」の回答が約8割（ $(21/27=)$ 77.8%）である。一方で、「身につけていない（「あまり身につけていない」3、「ほとんど身につけていない」1）」の回答もある。
- ・在学中の大学教育への満足度：「満足していた（「とても満足していた」9、「ある程度満足していた」13）」の回答が8割以上（ $(22/27=)$ 81.5%）である。一方で、「満足していなかった（「あまり満足していなかった」3）」の回答もある。
- ・大学での学びの現在の役立ち：「役にたっている（「かなり役にたっている」7、「ある程度役にたっている」14）」の回答が約8割（ $(21/27=)$ 77.8%）である。一方で、「役立っていない（「あまり役にたっていない」4）」の回答もある。
- ・社会人として働くなかで「特に求められる」と感じるスキル、リテラシー：最も多いスキル、リテラシーは、「行動力・実行力、コミュニケーション力」21である。次いで「教養・ビジネスマナー」12、「専門性・デジタルスキル」10である。

IV 「本学のキャリア支援体制に関する質問」の集計結果を表 12 から表 16 に示す。

- ・在学中のキャリア支援センター支援の利用度：「はい（利用した）11」の回答が約 4 割（ $11/27=40.7\%$ ）の一方で、「いいえ（利用しなかった）15」の回答が 5 割（ $(15/27=) 55.6\%$ ）を超えている。
- ・在学中に利用したキャリア支援：「個別面談」9（81.8%）が最も多く、次いで「学内合同企業説明会」5（45.5%）および「キャリアガイダンス」5（45.5%）、「インターンシップ紹介」1（9.1%）である。
- ・本学のキャリア支援の進路決定や就職活動への役立度：「役立った（「非常に役立った」6、「ある程度役立った」4）」が利用者の 9 割（ $10/11=90.9\%$ ）を超えている。一方で、「役立たなかった（あまり役立たなかった）1」の回答もある。
- ・在学中に充実をもとめた支援：「個別面談」7（63.6%）が最も多く、次いで「インターンシップ紹介」4（36.4%）、「学内合同企業説明会」2（18.2%）、「キャリアガイダンス」1（9.1%）である。
- ・卒業後のキャリア支援センターへの相談：「相談したいと思ったことはなく、卒業後に相談できることも知らなかった」6（54.5%）が最も多い。なお、「相談したいと思ったことはない（「相談したいと思ったことはないが、卒業後に相談できることは知っていた」＋「相談したいと思ったことはなく、卒業後に相談できることも知らなかった」）」とする回答が 6 割（ $7/11=63.6\%$ ）を超えている。さらに、「卒業後に相談できることは知らなかった（「相談したいと思ったことがあるが、卒業後に相談できることは知らなかった」＋「相談したいと思ったことはなく、卒業後に相談できることも知らなかった」）」とする回答も 7 割（ $8/11=72.7\%$ ）を超えている。

V 「母校（北海商科大学）への思いに関する質問」の集計結果を表 17 から表 22 に示す。

- ・卒業後（現在）、卒業生同士のつながりの有無：「学生同士の個人的な付き合いによるつながり」21（77.8%）が最も多く、次いで「教員との個人的な付き合いによるつながり」9（33.3%）、「ゼミなど在学中の講義・演習によるつながり」6（22.2%）などである。
- ・北海商科大学へ入学・卒業してよかったと思うとき：「仕事・プライベートで、本学の先輩・後輩に出会ったとき」13（48.1%）が最も多く、次いで「大学・キャンパスを訪問したとき」6（22.2%）、「先生・在学学生・卒業生の活躍がテレビや新聞で報道されたとき」5（18.5%）などである。
- ・北海商科大学へ入学・卒業してよかったと思うときに必要なこと：「大学の知名度・ブランド力の向上」14（51.9%）が最も多く、次いで「講義・演習など教育・研究の質の向上」11（40.7%）、「大学の偏差値の向上」7（25.9%）などである。
- ・あなたができる母校へのサポート：「仕事面で能力を発揮し職場で活躍すること」17（63.0%）が最も多く、次いで「講義などの場で OB/OG として講演をすること」14（51.9%）などである。
- ・卒業生へ向けての効果的な情報発信方法：「公式 SNS」14（51.9%）が最も多く、次いで「公式 Web サイト」9（33.3%）、「『学報』の郵送」8（29.6%）などである。

- ・母校での再学習への挑戦：「学部への再入学」9（33.3％）が最も多く、次いで「大学院への進学」6（22.2％）、「市民公開講座への参加」4（14.8％）などである。

※調査結果より、北海商科大学卒業生のキャリア形成や大学教育の効果に関して以下の点が示唆された。

- ・卒業生の就職状況：勤務先の業種は教育・公務、宿泊・飲食・生活関連サービスや運輸・物流・不動産業など多岐にわたる。また、職種では営業・販売・サービス系が多く、在学中に習得した知識・スキルが実務に役立っていると感じる卒業生が約8割に達している。このことから、大学教育の実務適応性は概ね高いといえる。一方で、満足度や習得度が十分でない層も一定存在しており、個別支援のさらなる充実が求められる。
- ・教育面：建学の精神や教育目標への理解度が高く、在学中の学びを評価する卒業生も多いことから、教育理念の浸透は概ね成功している。しかし、知識・スキルの習得や大学教育の満足度で8割強にとどまること、社会人として特に求められるスキルとして、行動力・実行力やコミュニケーション力が重視されることから、実践的教育やビジネススキルの強化が今後の課題となる。
- ・キャリア支援：利用率が約4割にとどまり、利用経験の有無により進路決定への効果も限定的であった。個別面談や合同企業説明会など具体的支援への要望は高く、卒業後の相談制度の周知不足も指摘されている。よって、キャリア支援の利用促進と卒業後も活用可能な支援体制の情報提供が課題となる。
- ・母校への愛着：卒業生同士の人的ネットワークが中心で、大学のブランド力向上や教育・研究の質の改善が入学・卒業の満足度に影響することが明らかとなった。卒業生の多くは、職場での活躍や講演活動を通じて母校支援に貢献する意向があり、公式 SNS や Web サイトを通じた情報発信が効果的であることが読み取れた。再学習への関心も一定存在し、学部再入学や大学院進学などの多様な学びの機会提供が望ましい。
- ・総じて、大学は教育理念の浸透と実務スキルの育成に加え、キャリア支援の利用促進と卒業生ネットワークの活用、情報発信の強化に注力することで、卒業生満足度と大学のブランド力向上を両立できる可能性が見いだされた。

以上

9 集計結果

【回答者属性に関する質問】 Q1 あなたの卒業年度をお選びください。

表1

項目	実数	割合
2018年度（2019年3月卒業）	1	3.7
2021年度（2022年3月卒業）	1	3.7
2022年度（2023年3月卒業）	1	3.7
2023年度（2024年3月卒業）	6	22.2
2024年度（2025年3月卒業）	16	59.3
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

【回答者属性に関する質問】 Q2 あなたが受けた入試制度をお選びください。

表2

項目	実数	割合
一般選抜（3教科型）	5	18.5
一般選抜（2教科型）	1	3.7
総合型選抜（Ⅰ期）	1	3.7
学校推薦型選抜（指定校制）	10	37.0
学校推薦型選抜（公募制）	4	14.8
学校推薦型選抜（併設校）	4	14.8
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

注）割合の算定にあたり四捨五入の端数処理により割合合計が100％にならないことがある。

【回答者属性に関する質問】 Q3 あなたの在学時の学科をお選びください。

表3

項目	実数	割合
商学科	8	29.6
観光産業学科	16	59.3
無回答	3	11.1
合計	27	100.0

【現在の所属・キャリアに関する質問】 Q4 現在の所属（勤務）先の業種をお選びください。

※日本標準産業分類を参考に業種を集約した区分

表4

項目	実数	割合
エネルギー・建設・資源（電気・ガス・水道・鉱業・建設業など）	2	7.4
製造業	1	3.7
情報通信業（IT・メディア含む）	1	3.7
運輸・物流・郵便	3	11.1
卸売業・小売業	1	3.7
金融・保険業	1	3.7
不動産業・物品賃貸業	3	11.1
宿泊・飲食・生活関連サービス（理美容、レジャー・娯楽含む）	4	14.8
医療・福祉・介護	1	3.7
教育・公務（学校・行政）	5	18.5
わからない・分類不能	1	3.7
学術研究、専門・技術サービス業	1	3.7
人材・労働者派遣（IT業務を含む）	1	3.7
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

注）割合の算定にあたり四捨五入の端数処理により割合合計が100%にならないことがある。

【現在の所属・キャリアに関する質問】 Q5 現在の所属（勤務）先においてあなたが就いている職種をお選びください。

※厚生労働省編職業分類をを参考に集約した区分

表5

項目	実数	割合
事務・管理系職種（一般事務、人事、経理、管理職など）	5	18.5
営業・販売・サービス系職種（営業職、販売職、接客、飲食、観光サービスなど）	13	48.1
福祉・医療・保育系職種（介護職、看護師、保育士、福祉支援など）		
教育・専門職系職種（教員、インストラクター、法務、会計士、文化芸術関連など）	3	11.1
製造・技術・研究系職種（製造業、技術者、エンジニア、研究開発など）	3	11.1
建設・土木・電気工事系職種（建設作業員、電気工事士、土木技術者など）		
運輸・物流・警備系職種（ドライバー、配送、機械運転、警備員、清掃など）	1	3.7
農林水産（農業、漁業、林業）		
わからない・分類不能		
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

注）割合の算定にあたり四捨五入の端数処理により割合合計が100％にならないことがある。

【現在の所属・キャリアに関する質問】 Q6 現在の職場に満足していますか。

表6

項目	実数	割合
とても満足している	6	22.2
ある程度満足している	17	63.0
あまり満足していない	1	3.7
ほとんど満足していない	1	3.7
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

【修学の達成・成果に関する質問】Q7 在学中、『建学の精神：地域に根ざした開拓者精神の涵養』および『教育目標（大学の使命・目的）：アジアの時代にアジアを学ぶ』を理解していましたか。

表7

項目	実数	割合
十分理解していた	7	25.9
ある程度理解していた	17	63.0
あまり理解していなかった	1	3.7
ほとんど理解していなかった		
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

【修学の達成・成果に関する質問】Q8 在学中の教育を通じて、知識やスキルはどの程度身につきましたか。

表8

項目	実数	割合
十分身についている	9	33.3
ある程度身についている	12	44.4
あまり身についていない	3	11.1
ほとんど身についていない	1	3.7
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

注) 割合の算定にあたり四捨五入の端数処理により割合合計が100%にならないことがある。

【修学の達成・成果に関する質問】 Q9 在学中、大学で受けた教育に満足していましたか。

表9

項目	実数	割合
とても満足していた	9	33.3
ある程度満足していた	13	48.1
あまり満足していなかった	3	11.1
ほとんど満足していなかった		
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

注) 割合の算定にあたり四捨五入の端数処理により割合合計が100％にならないことがある。

【修学の達成・成果に関する質問】 Q10 大学での学びは現在役にたっていますか。

表10

項目	実数	割合
かなり役にたっている	7	25.9
ある程度役にたっている	14	51.9
あまり役にたっていない	4	14.8
ほとんど役にたっていない		
無回答	2	7.4
合計	27	100.0

【修学の達成・成果に関する質問】Q11 社会人として働くなかで「特に求められる」と感じるスキル、リテラシーは何ですか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表11

項目	実数	割合
教養・ビジネスマナー（一般常識、責任感、マナーなど、社会人としての最低限備えるべき心得）	12	44.4
論理的思考・問題解決力（論理的に考え課題を発見し解決策を導き出す力）	9	33.3
行動力・実行力、コミュニケーション力（主体性、積極性を発揮する力、傾聴、発信、共感、協調など、他者と働く際に不可欠な基礎的素養）	21	77.8
創造力・企画力（柔軟な発想から新しい価値を生み出す力）	8	29.6
専門性・デジタルスキル（資格、専門技術、語学力、パソコン操作、ITリテラシー）	10	37.0
無回答	2	7.4
合計	27	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象数を示す。さらに「割合」は調査対象総数に対する比率である。

【本学のキャリア支援体制に関する質問】Q12 在学中に本学のキャリア支援センターの支援を利用しましたか。

表12

項目	実数	割合
はい	11	40.7
いいえ	15	55.6
無回答	1	3.7
合計	27	100.0

【本学のキャリア支援体制に関する質問】 Q13 在学中に利用したキャリア支援をお選びください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表13

項目	実数	割合
個別面談（進路相談・履歴書添削など）	9	81.8
学内合同企業説明会	5	45.5
インターンシップ紹介	1	9.1
キャリアガイダンス（就職対策講座など）	5	45.5
合計	11	－

注）Q12で「はい」と回答した11名が対象である。「割合」はQ12で「はい」と回答した11名に対する比率である。

【本学のキャリア支援体制に関する質問】 Q14 本学のキャリア支援は、あなたの進路決定や就職活動に役立ちましたか。

非常に役立った

表14

項目	実数	割合
非常に役立った	6	54.5
ある程度役立った	4	36.4
あまり役立たなかった	1	9.1
まったく役立たなかった		
合計	11	100.0

注）Q12で「はい」と回答した11名が対象である。「割合」はQ12で「はい」と回答した11名に対する比率である。

【本学のキャリア支援体制に関する質問】 Q15 在学中に、より充実して欲しいと感じた支援をお選びください。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表15

項目	実数	割合
個別面談（進路相談・履歴書添削など）	7	63.6
学内合同企業説明会	2	18.2
インターンシップ紹介	4	36.4
キャリアガイダンス（就職対策講座など）	1	9.1
特になし	2	18.2
合計	11	－

注）Q12で「はい」と回答した11名が対象である。「割合」はQ12で「はい」と回答した11名に対する比率である。

【本学のキャリア支援体制に関する質問】 Q16 卒業後に、キャリアに関してキャリア支援センターに相談したいと思ったことはありますか。また、卒業後もキャリアに関してキャリア支援センターへ相談できることを知っていますか。

表16

項目	実数	割合
相談したいと思ったことがあり、卒業後に相談できることも知っていた	1	9.1
相談したいと思ったことがあるが、卒業後に相談できることは知らなかった	2	18.2
相談したいと思ったことはないが、卒業後に相談できることは知っていた	1	9.1
相談したいと思ったことはなく、卒業後に相談できることも知らなかった	6	54.5
無回答	1	9.1
合計	11	100.0

注）Q12で「はい」と回答した11名が対象である。「割合」はQ12で「はい」と回答した11名に対する比率である。

【母校（北海商科大学）への思いに関する質問】Q17 卒業後（現在）、卒業生同士のつながりがありますか、または過去にありましたか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）※いずれも対面に限らずSNSなどを含む。

表17

項目	実数	割合
学生同士の個人的な付き合いによるつながり	21	77.8
教員との個人的な付き合いによるつながり	9	33.3
ゼミなど在学中の講義・演習によるつながり	6	22.2
在学中のサークル・課外活動によるつながり	4	14.8
同窓会などのイベントへの参加によるつながり		
勤務先による営業や採用人事などによるつながり	4	14.8
特になし	2	7.4
無回答	2	7.4
合計	27	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象数を示す。さらに「割合」は調査対象総数に対する比率である。

【母校（北海商科大学）への思いに関する質問】Q18 北海商科大学へ入学・卒業してよかったと思うときはどのようなときですか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表18

項目	実数	割合
仕事・プライベートで、本学の先輩・後輩に出会ったとき	13	48.1
先生・在学生・卒業生の活躍がテレビや新聞で報道されたとき	5	18.5
世間で大学の知名度が上がったと感じたとき	1	3.7
大学・キャンパスを訪問したとき	6	22.2
特になし	4	14.8
その他（大学で学んだことが仕事で役に立ったとき）	1	3.7
その他（大学でこれからも仲良くしたい友達に出会えた。これからも関わっていききたいと思える先生に出会えた。現在の仕事で商科の先生と関わることができた。）	1	3.7
その他（仕事で外国語を使った時）	1	3.7
無回答	2	7.4
合計	27	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象数を示す。さらに「割合」は調査対象総数に対する比率である。

【母校（北海商科大学）への思いに関する質問】Q19 北海商科大学へ入学・卒業してよかったと思うには何が必要と考えますか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表19

項目	実数	割合
大学の偏差値の向上	7	25.9
講義・演習など教育・研究の質の向上	11	40.7
大学の知名度・ブランド力の向上	14	51.9
特になし	2	7.4
その他（商科大学でしかできない経験が豊富であること）	1	3.7
その他（学生の質）	1	3.7
無回答	4	14.8
合計	27	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象数を示す。さらに「割合」は調査対象総数に対する比率である。

【母校（北海商科大学）への思いに関する質問】 Q20 あなたができる母校へのサポート（支援・応援）にはどのようなものがありますか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表20

項目	実数	割合
仕事面で能力を発揮し職場で活躍すること	17	63.0
講義などの場でOB/OGとして講演をすること	14	51.9
奨学金など経済面で資金を支出すること		
特になし	4	14.8
無回答	2	7.4
合計	27	—

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象数を示す。さらに「割合」は調査対象総数に対する比率である。

【母校（北海商科大学）への思いに関する質問】 Q21 卒業生へ向けての効果的な情報はどのように発信すべきと考えますか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表21

項目	実数	割合
公式Webサイト（ホームページ）	9	33.3
公式SNS	14	51.9
『学報』（紙媒体）の郵送	8	29.6
特になし	2	7.4
無回答	4	14.8
合計	27	—

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象数を示す。さらに「割合」は調査対象総数に対する比率である。

【母校（北海商科大学）への思いに関する質問】Q22 母校で再学習のチャンスがあるとしたら、どのようなことに挑戦してみたいですか。該当するすべてを選択してください。（複数選択可）

表22

項目	実数	割合
大学院への進学	6	22.2
学部への再入学	9	33.3
市民公開講座への参加	4	14.8
再学習の必要性を感じない	2	7.4
特になし	4	14.8
その他（留学、海外ボランティア活動など）	2	7.4
無回答	3	11.1
合計	27	－

注）実数の「合計」は回答数の累計ではなく調査対象数を示す。さらに「割合」は調査対象総数に対する比率である。